

# 世界遺産春日集落の持続可能な維持と発展に係る課題検証

## －長崎県立大学公共政策実習による課題解決プロジェクトを中心に－

ブレンディ バロリ

### 要旨

人口減少、過疎化、高齢化に伴い、農産地域においては、より一層の地域コミュニティの維持や活性のため方策が求められている。この課題に直面し続けている世界文化遺産である平戸市春日集落の人口減少や高齢化が進んでいる他に多数の取巻く課題が年々深刻化している。生産年齢人口の高齢化が進み、棚田の維持、田んぼの耕作等保全活動を行っている60代から70代の方が引退した場合の後継者の不足等である。

上記の課題を解決するため、本学の公共政策学科が2018年から公共政策実習の一環として学生たちと共に多数の活動を取り組んできた。その中に、著者が2022年3月に本学に着任してから、春日集落の認知度・魅力度に関する2022年に平戸市内に聞き取り調査を実施した。調査の分析を行い認知度と魅力度の課題の原因や今後の取り組みについてのプロセスを明らかにした\*。

**キーワード**：官民連携、地域振興、公共政策実習、春日集落、シビックプライド醸成

### 課題

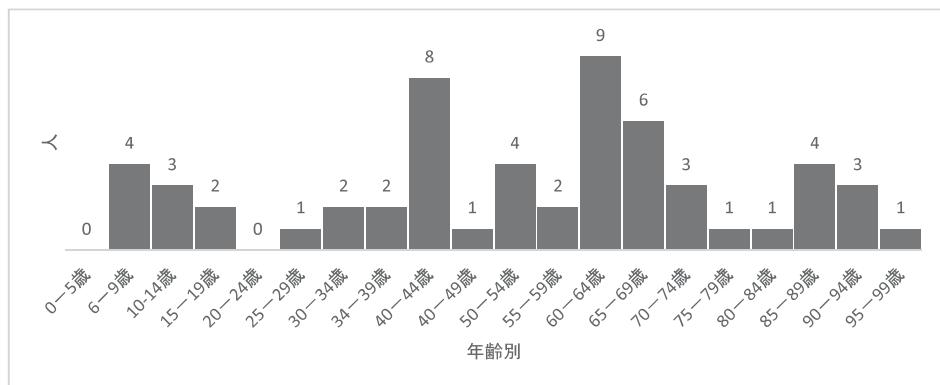
#### 1) 春日集落の現状

春日は平戸島北西岸沿いに位置し、生月大橋手前にある春日町に所在する集落である。平戸市「令和2年町別人口統計表」による、2020年3月時点では春日の存在する春日町の世帯総数は21世帯と65人の住民が生活していた。さらに、現在、春日集落の世帯数は24世帯、人口が57人まで減少しており、集落の課題として、田んぼの耕作や草刈り等保全活動を行っている60代から70代の方が引退した場合の後継者の不足等である（注：2025年2月1日の「令和7年町別人口統計表」によると：男24人、女28人、合計52人と世帯数は20世帯となっている）。

---

\* 本論文で紹介する公共政策実習に参加した学生（当時3年生）は次の通りである：井関萌絵、江頭幹人、小切山丹音、佐伯諒、田中美江、田川大聖、道家縁、旗野央基。

グラフ1. 春日町の年齢別人口（2023年12月15日現在）



出典：平戸市の年齢人口統計による作成

## 2) 背景

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産について文化的景観保護制度を活用することによって、まちづくり協議会（当時、「春日町まちづくり協議会 安満の里春日講」）が平戸市と連携し、棚田を含めた地域資源を活かした集落の活性化に2010年から取り組んでいる。

また、世界文化遺産登録を契機に取組を更に推進する必要であると、2022年度公共政策実習の学生に平戸市文化交流課職員より説明を行った。

世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成は以下になる。

- ・キリスト教禁教による宣教師が不在の中で、神道や仏教等の伝統的宗教や一般社会と関わりながら密かに信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統の証となる遺産群
- ・国内に宣教師が不在となりキリシタンが「潜伏」したきっかけ、信仰の実践と共同体の維持のためにひそかに行なった様々な試み、宣教師との接触により転機を迎え、「潜伏」が終わりを迎えるまでの歴史を物語る12の資産で構成されている<sup>1)</sup>。

農林水産省の【地域（農村）－棚田を含む中山間地域－】によると、世界文化遺産に登録されたことに伴い、観光客が2017年1,500人から2018年に20,000人激増した。

さらに、空き家を改修した集落拠点「かたりな」を開設し、住民と来訪者が相互

1) (末吉 剛氏、平戸市 文化観光商工部 文化交流課文化遺産班、2022年07月05日、2022年度春日集落の公共政策実習説明会)

表1. 春日集落案内所かたりなの来訪者数

年	来訪者数（人）
2017	1,500
2018	20,185
2019	19,924
2020	15,517
2021	13,955
2022	16,218

出典：平戸市文化交流課のデータより作成

に刺激を受ける、理想的な文化観光の形ができつつある<sup>2</sup>。

### 3) 課題整理

長崎県立大学地域創造学部の公共政策学科が2018年から実施している公共政策実習の一環として、世界文化遺産である平戸市春日集落の現状と課題について現地への調査とヒアリング調査を行うと同時に、その解決策についていくつかの提案する本研究の目的である。

2019年度では集落の棚田継承に係る課題調査や丸尾山の階段補修作業を、2020年度はフィールドワークを通じ、春日集落の散策マップを作成、丸尾山の階段補修作業や世界遺産イルミネーションイベントの準備作業、そして2021度では、案内所語り部へのヒアリングを行い、5人分の自分史を作成した。

本科目の前任者、川崎 修良氏によると：当初から活動を通して2021年に報告会での、取り組みと文化的景観の継承のために、その担い手となる地域住民が地域の景観の重層性を認識し、外部の支援者と共に継承の手法の対話を重ねていくことが必要であるが、地域住民自身による日常景観の発見は困難であり、春日集落の世界遺産登録準備の中で行われた地域の宝調査においても十分な発見が為されたとは言い難かったと指摘がある。

平戸市総合計画においては、市民と行政が一体となったまちづくりが掲げられている<sup>3</sup>。そこで、まず重点プロジェクトの「やらんば燐燐プロジェクト」に注目した。やらんば燐燐プロジェクトでは、市の資質・資源を伸ばし、個性を創造するという視点から、「人・宝・住」をキーワードに、プロジェクトが行われている。

2 地域（農村）－棚田を含む中山間地域－農林水産省、p.117

3 平戸市総合計画、2008年度～2017年度、p.114

特に、観光面では、宝を磨く、宝を活かす、の循環と同時に、積極的・効果的な情報発信を行うことで、地域の活性化や交流人口の拡大を目指している<sup>4</sup>。

第2次平戸市総合計画では、平戸市未来創造羅針盤アクションプラン、シン、平戸創生プロジェクトにおいて観光について述べられ、特に、シン、平戸創生プロジェクトにおいてシンという漢字をテーマに以下の3つのプロジェクトに注目した<sup>5</sup>。伸：未来を担う人材創出プロジェクト、進：もうける農水産プロジェクト、新：平戸観光地力向上プロジェクトである。

現地視察後に学生たちが議論し、春日集落においてお金を稼ぐコンテンツが少ないこと、平戸市や春日集落の人が何を求めているのかについて明らかにする必要があるとの結果だった。これらの意見と総合計画を踏まえ、春日集落の活性化に何が必要なのか考察した。

上記の課題を踏まえ、2022年度の活動の主な目的は以下に設定した：

- ・平戸市春日集落の課題に対する政策提案や取り組みを実践し、大学生という立場から課題解決に携わる
- ・春日集落にしかない特色を、よそ者として学生自身の目で学び、その良さを形で表す。（平戸市春日集落 2022年度公共政策実習最終報告書から転載、2023年02月28日、長崎県立大学地域創造学部公共政策学科）。

また、学生の視点から地域資源の利活用、観光客の誘致、春日集落ファンづくり、交流人口・関係人口の拡大、UIJターンに関する提案を地元住民に行することで、新たな発見や気づきを与えること目指している。

## 研究方法

研究方法として、平戸地域に訪れた観光客に対しアンケートを行うことで認知度や課題を明らかにし、春日集落の観光促進を図る目的で定量調査（インタビュー式）を用いた。本プロジェクトの全体的の活動は以下の表にまとめた。

まず、現地への視察を行い、平戸市フィールドワークとして、平戸市観光案内所、春日集落案内所「かたりな」、島の館、切支丹資料館に訪れた。その後の話し合いで、春日集落、および平戸地域の歴史、現状を整理し、課題、改善点、今後知りたいことについて議論した。

その後、春日集落の現状と課題を明らかにするためアンケート調査実施に関する

4 Ibid

5 Ibid

表2. 2022年度活動内容

活動日時	活動内容	場所
6/14	春日実習案内	大学
7/24	平戸市フィールドワーク	平戸観光案内所、春日集落案内所「かたりな」、島の館、切支丹資料館
8/10	話し合い	大学
9/5	話し合い	大学
9/16・17	春日アンケート調査①	田平天主堂、平戸城、かたりな、観光案内所
10/8・9	春日アンケート調査②	田平天主堂、平戸城、かたりな、瀬戸市場
10/29・30	棚田イルミネーション設営準備	春日集落
12/8	話し合い	大学
12/15	学内報告会	大学
1/30	話し合い	大学
2/6	話し合い	大学
2/14	春日集落報告会	かたりな

計画を作成した。アンケートに9つ質問を設定し、第1回目が9月17日で第2回目が10月8日と9日の2日間にかけて実施した。調査場所は平戸城、田平天主堂、かたりなに加えて第1回目は平戸観光案内所、第2回目は瀬戸市場の4カ所で行った。アンケートの内容は以下の通りに作成した。

## 平戸地域観光活性化アンケート調査

長崎県立大学公共政策学科

アンケートのご協力のお願い 代表者 男・女 年齢 \_\_\_\_代 \_\_\_\_名

平戸市の皆様にアンケートをお願い申し上げます。このアンケートは平戸市、春日集落について皆様からご意見をいただくことを目的に、長崎県立大学公共政策学科の授業の一環として行うものです。アンケートは10分ほどで済みます。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、アンケート結果は統計数字として処理し、学術公的以外には使用することはありません。

質問1 どちらからいらっしゃいましたか。（口頭で交通手段）

質問2 平戸地域を訪れた目的は何ですか。

質問3 平戸地域の魅力はどこですか。（例：景観、食、歴史など）

質問4 平戸地域で一番やりたいこと（行きたい場所）は何ですか。

質問5 春日集落を知っていますか。/訪れたのは何回目ですか。

質問6 潜伏キリシタンについて知っていることはありますか。

質問7 平戸地域のおすすめの観光スポットはどこですか。

質問8 平戸地域がより良い観光地になるには何が必要だと思いますか。

質問9 その他、平戸地域について感じたことはありますか。

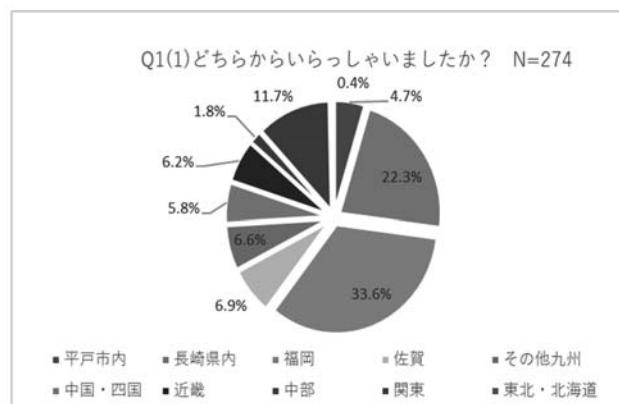
以上で終わりとなります。貴重なご意見ありがとうございました。

## 結果

ここで、質問1から9までのアンケート分析結果について述べていく。

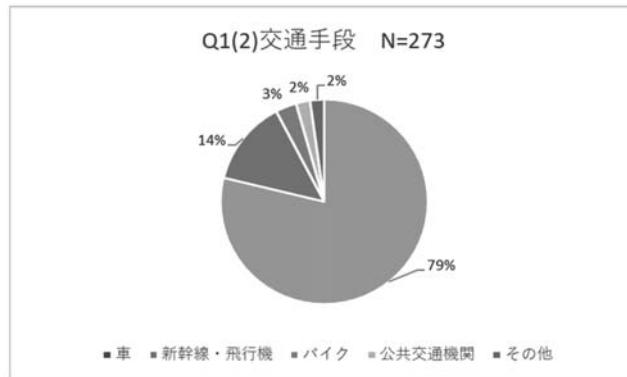
まず、Q1（1）のどちらからいらしたかと言う回答では九州が約7割を占め、九州以外からは仕事や帰省で平戸を訪れている人が多かった。

## グラフ2. どこから来た？



次にQ1（2）交通手段について。

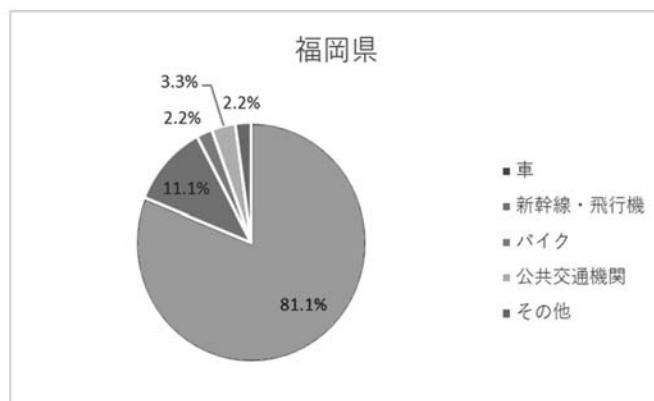
グラフ3. 交通手段



交通手段では約8割の回答者が車を利用していることが明らかになった。かたりなまで全員が車やバイクを利用した。そして観光客の地域別、調査地別に交通手段の割合はどれくらい違いがあるのか把握する必要であると考え、詳細に調べることにした。

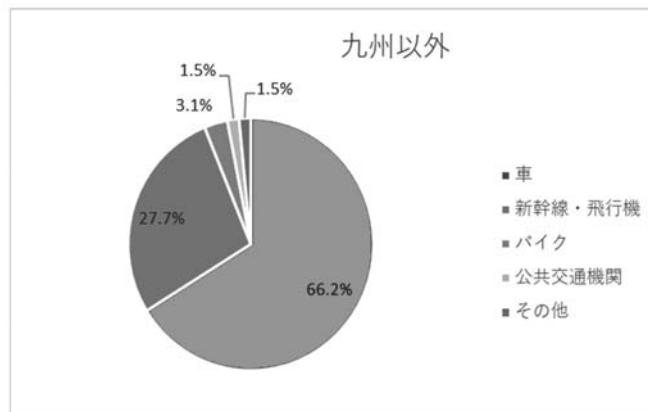
まず、福岡県ですが全体の割合とほとんど変化はなく、約8割の人が車を利用した。さらに、調査した半分以上の方が福岡市などの福岡地域から訪れていることから唐津経由の西九州道を利用していることが分かった。

グラフ4. 地域別の交通手段の割合 (1)



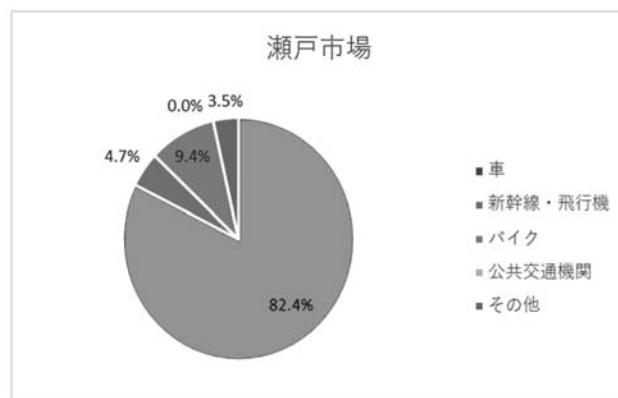
次に九州以外、本州の割合を見てみると車の割合が最も高いが、遠方からであるので新幹線や飛行機を利用した人の割合が3割近く占めている。関東から訪れた人は新幹線や飛行機を利用した。

グラフ5. 地域別の交通手段の割合（2）



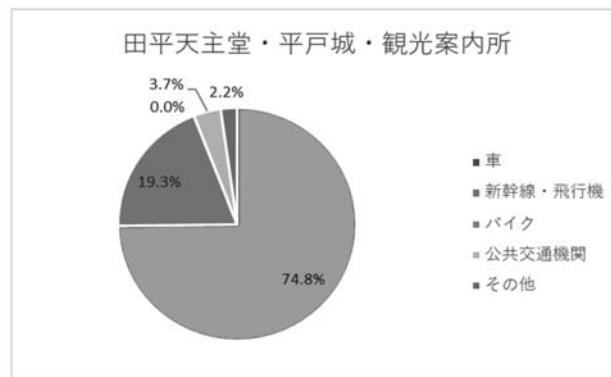
次に、調査場所別に交通手段の割合を調べた。瀬戸市場は観光客ではなく、買い物客であるので車で訪れた人がほとんどで8割を超えていた。また、ツーリングの休憩として訪れていた人もおり、1割がバイクで来たと回答した。公共交通機関で訪れた人はほとんどいない。

グラフ6. 調査場所別の交通手段の割合（1）



田平天主堂・平戸城・観光案内所は平戸市の市街地にも近くにあり観光客が多く訪れる場所であるので瀬戸市場と比べると公共交通機関での割合が高くなっている。車以外で訪れた人が4分の1占めていた。

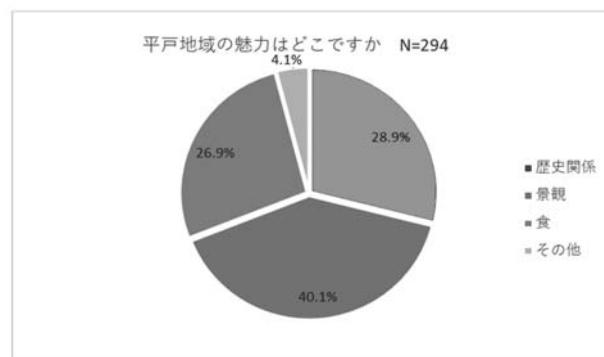
グラフ7. 調査場所別の交通手段の割合 (2)



Q2の平戸地域を訪れた目的については、観光と回答した人が最も多い、特に平戸城と答えた割合が高かった。2回目の調査時が平戸ツーデイウォークやキャンプ等のイベントとかぶっていたため、イベント目的で平戸を訪れている人も多かった。帰省や仕事等で平戸に来た人は少数だった。

Q3の平戸地域の魅力について。最も多かったのが自然の景観で4割の方が回答から特に根獅子の海が綺麗であるという意見が多かった。次に、キリスト教や教会などの歴史関係で特に、平戸城と答えた人の割合が高い。

グラフ8. 平戸地域の魅力について

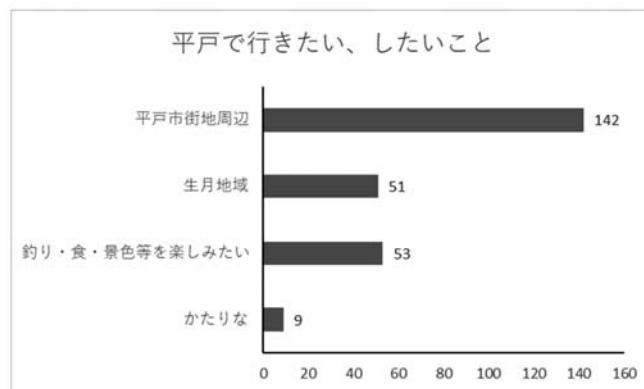


- ・歴史的な街並みや教会などの歴史関係が最も多い→平戸城の割合が最も高い
- ・景色の中でも特に根獅子の海
- ・食の中でも特に海鮮料理や海鮮丼に魅力があると回答された

さらに、Q4の平戸地域で一番やりたいこともしくは行きたい場所について、最も多かったのが平戸市街地周辺であった。市街地周辺に観光地やお店が集中してい

るからであると考えられる。次に多いのが釣り・食・景観等を楽しみたいでその次が生月地域、生月地域は遠いが訪れる人が一定数いることが分かった。カタリナと回答した人は世界遺産であるのにも関わらずわずか9人でとどまった。

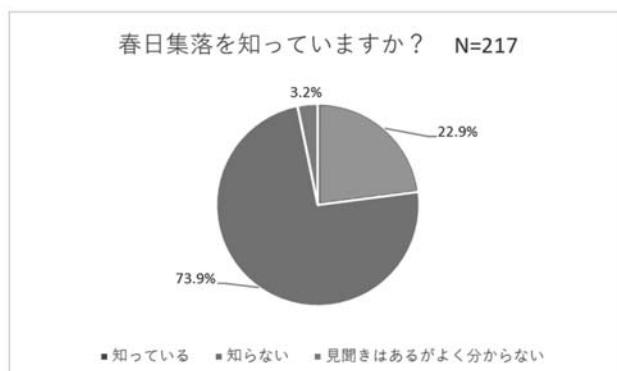
グラフ9. 平戸地域で一番やりたいこと（行きたい場所）



- ・市街地周辺が最も多く、特に平戸城の割合が高かった
- ・かたりなは最も少ない
- ・生月地域を訪れる人も意外と多い

Q5の春日集落を知っているかについては7割以上の方が知らないと回答し、知っている人のほとんどが地元や県内の人であった。また、知っている人の中で実際に訪れたことがあるのは約7割程度しかない。

グラフ10. 春日集落の認知度について



春日集落の認知度を①平戸市内、②長崎県内、③佐賀・福岡・その他九州、④本州の地域別に分析してみた結果、平戸市内では、知っていると答えた割合が最も高いが、地元であるにも関わらず、知らない人が6割を超えた。

次に長崎県内では、知っている人の割合が最も低く、知らない人の割合が最も高いことから、県内での認知度が低いことが分かった。長崎は平戸以外にもキリスト教関連の歴史や文化があり、キリスト教と密接な関係であると思っていたので想定外な結果であった。

佐賀・福岡・その他九州では、全体の結果とほとんど数値が同じだった。本州では、意外にも知っている人の割合が平戸市内の次に高い結果になり、遠方から訪れるため、平戸の歴史や文化に関心がある人が多いかと考えられる。

Q6の潜伏キリストンについての質問では、知らない人の割合が最も多く、聞いたことはあっても詳しくは知らないと言う人も多い結果となった。また、平戸がキリスト教関連の世界遺産に認定されていることがあまり認知されていなかった。

地域別の潜伏キリストンの認知度を分析したところ、長崎県内(平戸市内も含む)と佐賀・福岡・その他九州は長崎県内の方がやや認知度は高いものの、そのほかの項目の割合の差はあまりなかった。

次に、本州は以外にも知らないと回答した割合が最も低い結果で、映画「沈黙－サイレンス－」から潜伏キリストンを知ったという意見で多かった。

春日集落を訪れた回数では、8割以上が1回だけしか言っておらず、リピーターが少ないと言う特徴がある。

Q7の平戸市のおすすめ観光スポットについては平戸城、海、教会の順で多いことから平戸市街地周辺の観光スポットの知名度が高いと言うことが分かった。しかし、観光スポットがわからないと答えた人が2割以上いたので、まだまだ観光のPRができていないとかんがえられる。

Q8の平戸がより良い観光地になるためにはと言う質問については、交通インフラ、アクセスが最も多く、平戸市街地以外の観光地への観光案内が分かりにくいと言う意見が多かった。また、魅力はあるが、SNSでの情報発信が足りてないため、PRできていない・子供も楽しめる観光コンテンツが必要と言う意見などが多かった。

Q8の中で最も回答の割合が高かったPR不足と回答した人を地域別に分析したところ、結果から、福岡県からの回答が最も割合が高いことが分かった。本州(特に関東)からは知名度が低いという意見が多いことから、本州での平戸の知名度があまりないことが分かった。

Q8の中で最も回答の割合が高かったPR不足と回答した人を地域別に分析結果から、福岡では唐津経由、佐賀と長崎では佐世保経由の西九州道の延伸を求める声や、本州からは公共交通を充実してほしいという意見が多いこととインフラ面では、駐車場の拡大が最も多かった。

最後のQ9の平戸地域について感じたことでは、自然が豊かで、海などの景色がきれい、食がおいしい、歴史的建造物などの景観が良いというような肯定的な意見があった一方、交通インフラが悪い、駐車場が少ない、娯楽施設が少ない、観光客がお金を落とす施設が少ないなどの否定的な意見もあった。

まとめとして、

- ・春日集落の知名度が低いが知っている人は訪れてくれる
  - ・観光スポットを知らない人が多く、PRが足りていない
  - ・交通面での不便さが課題である
  - ・平戸内を巡りやすい案内やルートづくりが必要
  - ・観光客に対して世界遺産であることの認知があまりされていない
- という結論に至った。

注：今回のアンケートはインタビュー形式で来訪者のリアルな意見を聞くことアンケートを集計と分析しグラフにまとめる調査方法である。

## 考察

### 総括

以上のことから、活動によって明らかになった春日集落の今後の課題について以下にまとめた。

春日集落の課題は大きく分けて3つある。

- 1つ目は春日集落の住民の主体性が弱いということ
  - 2つ目は道路や行政などのハード面の課題
  - 3つ目はソフト面の課題
- 1つずつの詳細解説は次になる。

1つ目の住民の主体性が弱いということについて、10月に棚田のイルミネーションライトの設置のお手伝いを行った際、地域の住民が参加しなかった。

集落を存続させ、さらに活性化させるには主体的に動く住民の存在が不可欠となる。そのため、春日集落では今後、イルミネーション設置など、様々な場面で住民を巻き込んだ取り組みを行い、住民が主体的に地域の活性化に取り組む環境づくり

を行う必要があると考えられる。

2つ目はハード面の課題について。上記の観光客を対象としたアンケート調査では、「かたりなまでの案内が分かりにくい」や「高速道路が繋がっていないため、平戸まで来づらい」といった意見が多く寄せられた。交通インフラなどのハード面はコストや地理など様々な条件により、改善できる範囲がかなり制限されるため、看板を設置して観光客がスムーズに目的地に行くことをサポートするなどできる範囲での対策を取ることが必要だと考えられる。

3つ目のソフト面の課題としては、発信力が最も重要な課題として挙げられる。観光客からは、情報発信が弱く、平戸市まで来て初めてかたりなや棚田を知ったという声が多く、また、実際に平戸やかたりなに来てみて、とても良かったという意見があった。すなわち、特に評価の高い平戸市内の歴史的な景観や春日集落の棚田や安満岳からの景色をSNSやホームページで発信することで、より多くの方に平戸の魅力を伝えることができる。また、イベントを開催することで、観光客を地域に呼び込むだけでなく、住民の地域活性化に対する意識向上にも繋げることができると結論した。

今回の調査で明らかになった地域の課題に対策を講じて、ハード、ソフト面を充実させるとともに、地域内で住民を巻き込んだ取り組みを行うことで官民の協力関係の形成を行う必要不可欠である。また、春日集落を担う次世代の育成が必要不可欠なのではないかと結論に至った。

春日集落の知名度は低いにもかかわらず、その地域を知っている人は訪れている。反面で、観光客に対して世界遺産であることの認知が低い、観光スポットを知らない人が多くと同時に、情報発信力は弱いも指摘できる。

アンケート調査の分析から得られた結果に基づいて、知名度を高め、平戸市を訪れた観光客に春日集落を知ってもらう必要があると指摘できる。イベントや標識だけでなく、住民の協力が必要不可欠である（官民連携強化）

平戸市全体と特に春日集落人口増減がシビックプライドを含めてどのような起因であるか、そして、その構造を解き明かすことが必要不可欠である。

## これから展望

2023年度の春日集落への公共政策実習の案として、平戸市・春日集落の事前学習を行い、春日集落の住民との交流とイベントの企画・立案である。そこで、まず、学生主体の地域課題解決型のプログラムを継続し、ヨソモノ・ワカモノ・バカモノのキーワードで大学生による集落の活性化を図る。

また、住民のシビックプライドと人口増減の関係を客観的に分析と明らかにすることは、地域が直面している人口減少の課題に対する、転入増加のための住みたくなるまちづくりや政策立案に対する有効な基礎情報となりうるからである<sup>6</sup>。

シビックプライドの醸成のために地域内外の連携構築を目指し、「MAP'S+O」という体制づくりは1つの課題解決策であると着目したい。

人々の協調行動を活潑にすることで社会の効率性を高めることのできる「親類性」「規範」「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴である<sup>7</sup>。

本年度のプロジェクトから得られた情報とともに上記の体制に焦点をあてたこれから研究を深めていく予定である。

さらに、長期的な計画として、アルベルゴ・ディフーズに関する研究を進めていきたい。アルベルゴ・ディフーズ（AD）とは地域そのものに泊まる分散された宿である。平戸市（春日集落）の資源を活用し観光まちづくりの実現のためAD事業に着目したい。

## 謝辞

本研究は平戸市から：「平戸市構成資産の集落（春日集落）の持続可能な維持・発展に係る課題など検証事業」の助成（共同研究）を受けたものである。

平戸市文化交流課職員の方々、春日集落の方々、本学科の先生方、その他関係者の皆様に心より感謝いたします。

## 註

- 1) 本活動は公共政策学科の実践科目の一環として、公共機関や地域社会の課題に取り組むグループワーク公共機関や地域社会の抱える課題に対して、グループワークの形で取り組む課題解決型のプロジェクトに参加することで、「公共政策実習」の授業内活動である。
- 2) 今回のアンケートはインタビュー形式で来訪者のリアルな意見を聞くことアンケートを集計と分析しグラフにまとめる調査方法である。

6 宗 健、2022年、「地域の居住満足度およびシビックプライドと人口増減の関係」、日本建築学会計画系論文集、第87巻、第799号、p.1731

7 茂田 陵、田中 尚人、王 光耀、2022年、「西原村の道路景観保全に関する研究」、土木学会論文集、78巻 6号、p.182

### 参考文献

1. 「平戸市総合計画、2008年度～2017年度」
2. 「平戸市未来創造羅針盤（第2次平戸市総合計画2018年3月～2027年3月）」
3. 「地域の持続可能な発展に向けた政策の在り方研究会」、報告書、2020年9月30日。
4. 茂田 陵、田中 尚人、王 光耀、2022年、「西原村の道路景観保全に関する研究」、土木学会論文集、78巻6号
5. 山浦 陽一、「地方大学における学生主体の地域課題解決型教育プログラム—大分大学経済学部「田舎で輝き隊！」の取り組み—」、農村計画学会誌 Vol. 35、No. 1、2016年6月
6. 宗 健、2022、「地域の居住満足度およびシビックプライドと人口増減の関係」、日本建築学会計画系論文集 第87巻、第799号
7. 伊藤 香織、2008、「シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする」、シビックプライド研究会編
8. 松下 啓一、2021年7月「民がつくる、わがまちの誇り：シビックプライド政策の理論と実際